

## 高野地区紙芝居（西北地域県民局の巻 その5）

大型バスに乗ってオオクチバスを退治に行くぞ…♪♪ はじまり、はじまり

7月28日（木） 13:30～ 五所川原市南部土地改良区 2階 大会議室において

『第1回高野地区環境公共推進協議会開催』 会員:子ども会、地域、市、県、改良区



おど様A:これから環境公共推進協議会を開催します。

粛々と会議は進行した。— 途中省略 —

おど様B:小学校のえらい先生から了解もらいました。

おど様C:案として、水路の生き物調査したらいいかも。

おど様D:生き物調査した魚のビオトープを造ったら。

おど様E:では、造るのは、この日でどうでしょうか。

おど様F:その日は、多くの人に参加するように願います。

おど様A:では、これで終わります。長い時間ご苦労様でした。当日は休まないように。特に・・・

8月8日（月） 9:30～ 高野地区水路において

『生き物事前調査』 大学生2名+県1名

調査員A君:ここには、ふな類だのいっぱいいるな。

調査員B君:この、緑色の元気な魚は何っていうの。

調査員A君:有名な外来種の「ブラックバス」ダネ。

調査員B君:その他は、ドジョウ?ふな類?タナゴ?

モツゴ?、たにし?事務所でおべおど様に聞こう。

8月9日（火） 8:30～ 高野地区内において

『高野地区環境公共推進協議会によるビオトープ造り』 環境公共推進協議会員



おど様A:小学生さ見せる池掘るんだ。りっぱな池にすべ。

おど様B:あまり深くほねでろ。落ちればたいへんだ。

おど様A:おめ、聞いたな、昨日の調査でブラックバス見つかったんだ。どのくらい、ここにいるんだ。

おど様B:高野大溜池にいるんだね、よく若者が釣りしてるべ、そこからくるんだね、なんとかして駆除しねばな。

おど様A:うん、うん。何とか駆除する方法ねもんだベガ。

おど様B:せっかく造ってもブラックバス生息していればな。

おど様A:これからが大変だね、あと何年も駆除に時間かかる。



8月21日(日) 早朝～ 高野大溜池において

『高野大溜池のブラックバス駆除』 高野集落住民+環境公共協議会員

その他大勢：ブラックバスはこっただにいたんだ、ここの昔からの魚いなくなる、早く埋めて駆除しねばな。

おど様：高野大溜池の水をここまで下げるの十数年ぶりだな、あまり昔でよくおぼえていねな。

8月30日(火) 9:00～ 高野揚水機場、夕顔関頭首工、排水路、ビオトープにおいて

『水のやくわり探検隊』開催 松島小学校 4年生 33名 他 環境公共推進協議会員



小学生A君：暑いな、でも楽しみだな。環境公共協議会ってなんだろう。早く魚捕まえないな。

小学生B君：うわー頭首工の上って高いんだな。すごい勢いで水が流れるだな。どこまで行くんだらう

小学生C君：この水、うちの学校のそばまであの水路流れて行くんだって。松の木川に流れるんだって。

おど様A：落ちるなよ。着替え持ってきてる人は、水路の中に入ってもいいよ。ケガはぜったにするなよ。

小学生E君：うわー、何かの魚が、ここの水路で泳いでる、でっかいふなだ。F君、早く網持ってきて。

小学生F君：これはドジョウだ、これはふなだ、たにしだモツゴだ。いたいた、知らない魚がいっぱいた。

小学生G君：さっき獲ったたくさんの魚が、おど様が造ったビオトープ池を元気に泳いでるね。

小学生H君：今日は、たくさんのみなさんありがとうございました。とっても楽しかったです。

おど様A：最後に、体験した農業水利施設のこと、魚がいっぱいたことを家族みんなにお話しして下さい。



天の声：探検隊は、ケガすることもなく、楽しく学び、体験し、去って行ったとサ。メデタシメデタシ